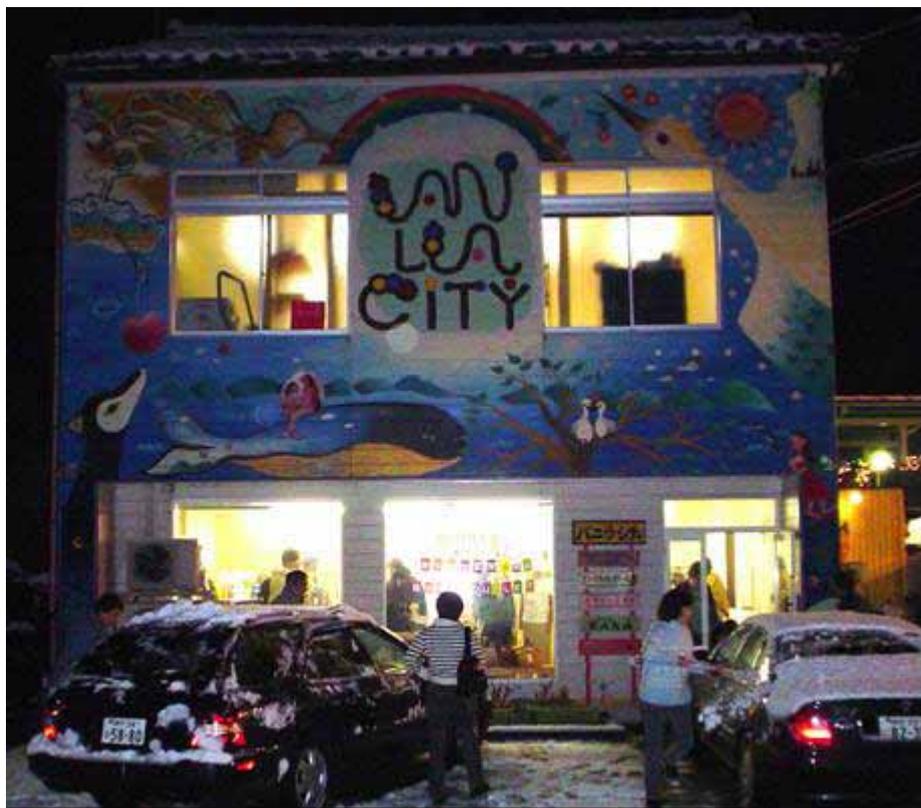


兵庫まちづくりプラットフォーム
但馬ワークショップ記録

「中心市街地の活性化に
市民・NPOは何ができるか？」



日 時：2004年3月6日(土)

会 場：バニラシティ(豊岡市寿町)

兵庫まちづくりプラットフォーム / 但馬ワークショップ

「中心市街地の活性化に市民・NPOは何ができるか？」記録

日 時：2004年3月6日（土） 17:02～20:01

会 場：バニラシティ（豊岡市寿町9-28）

参加者：荒谷、有村、岩崎、上坂、川村、木村、金野、小浦、小林、小森、小山、
野崎(隆)、野崎(瑠)、三笠、村上、森田、薮本、山根、吉川、吉田

この記録は、同日に行われた「中心市街地活性化支援フォーラム(豊岡会場)」(兵庫県県土整備部まちづくり課主催)の後、「兵庫まちづくりプラットフォーム」(事務局:特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所)が実施したワークショップの記録です。参加された方々には、アフターファイブとして自由に語っていただきました。

上記フォーラム終了後、ワークショップ会場のバニラシティへ移動する間に、中央商店街、公設市場、アイティを見学しました。なお、ワークショップの進行は小林郁雄氏(コー・プラン)にお願いしました。

フォーラムに引き続いて、「中心市街地の活性化に市民・NPOは何ができるか？」をテーマにワークショップを始めます。最初に、今日は何のためにやるのかを、野崎事務局長からご説明願います。

兵庫まちづくりプラットフォーム事業について(野崎隆一氏:特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所)

ひょうごボランティアプラザの「行政とNPOの協働事業助成」という制度があり、NPOである神戸まちづくり研究所が兵庫県住宅地課との協働で「兵庫まちづくりプラットフォーム設立事業」というのを提案しました。兵庫県下のいろいろな地域固有の課題の中でまちづくりに関することを、地域のNPOや市民、それから我々専門家、そして行政の人たちが集まって、課題解決に向けていろいろ協議をするような、できれば常設のプラットフォームを各地につくりたいということで提案した事業です。

昨年、各地でワークショップをずっとやってきており、最初は南但馬の大屋町で田舎暮らしをテーマに、それから播磨で古民家の保存や改造の話をテーマに開催しました。神戸地区においては団地再生が一つのテーマになっており、明舞団地で団地再生のワークショップをこの協働事業の中で我々も出てやっています。今回も、プラットフォーム設立に向けてのきっかけづくりということで、小林さんに仕切っていただき、但馬で中心市街地活性化についてNPOと市民が連携して何ができるかということでやらせていただいています。

このバニラシティというところをご存知の方は少ないと思いますので、ここは何かという話と、このスペースがどういう形でどう運営されているかを森田さんにご紹介をいただきます。

バニラシティについて(森田充代氏:バニラシティ代表)

このバニラシティの正面の絵と側面の壁を見ていただいたらいいのですが、市民の手づくりで作りました。絵の上手な若い子の手づくりです。空店舗を利用してまちの活性化につながることを前から考えており、いくつかあった若いボランティアグループの中の女性陣ばかりでやろうと一昨年の4月に立ち上げました。このスペースはカフェで、独立でやっています。隣には教室があり、自動車教習所の教室、パソコン、学習塾、竹作り家具、若い子たちに人気のある服のショップ、絵画教室、それから手づくりジュエリーやデッサン教室で、それぞれの曜日を皆さんに上手に使っていただいています。2階は貸教室と通常月曜日から金曜日まではニュージールランドから先生をお二人迎えての3歳からおとなまでの英会話教室、それと私の古典文学講座と男女共同参

画の講座とをしています。利用していただける年齢層は本当に幅広く、3歳から上は80歳ぐらいまで、年齢問わず出入りしていただいています。このカフェの奥の倉庫だったところに県が出している若者の広場を移して、溜まり場兼ミーティングの場所として、いつでも皆が立ち寄れるようにと、この春から工事に入ります。

まずは何の関係があるかと言うと、まだNPOにはしていませんが、まちづくりに関して机上で空論することはもう終わったと、要はもう実践することのみだと私たちはやってきました。一杯力があります。何かしたい、何かで一緒に参加できるのだったらという若い人の集まりです。声をかけたら皆集まってきます。音楽のチラシを一杯貼っていますが、月に1回音楽の好きな子が寄ってライブをしています。本当に若者が喜んで使ってくれています。まちの中心からは離れていますが、ちょうどバス停があり、近くに高校もあり、立ち寄りやすく大変便利とされています。資金0からの手づくりのスタートでしたが、最後のところが春に完成して、いよいよオープンできます。

今日は市職員の方も来られていますが、駅通をいかに活性化させるかということで、皆さんにお知恵をいただきたいのです。今考えているのは、この若者たちをどっとまちに繰り出して、オープンカフェなり、皆の手づくり作品を披露したり販売したりする第2号店として、駅通の空店舗を利用させていただくことです。なかなか商店街や家主さんとの折り合いが難しく、お金が絡むと苦勞もあります。それと、近くの学校の絵画の子たちと、いい腕を持っている若者たちとで、万年シャッター通りになりかけているところの各店舗にご協力いただき、シャッターに絵を描いて、閉まっているところは特に、アート通りができればいいなと考えています。先ほど皆さんがご覧になった公設市場の入り口や中の絵は、うちの若い子たちが有償ボランティアで描きました。実践してみた結果、やはり推進というのは皆で力を合わせて努力する、努めるということそのままやっていったということです。

今まで豊岡を中心にワークショップをずっとやってきましたが、何一つとして実践され行動に移されたことを見たことがありません。本当にやるのなら、何をするかではなく、何からしていこうという議論がありがたいと思います。だから住みたいまちと思える、住んで良かった、やって良かったと思えるような、すばらしいご意見をいただいたら、即それを若い者たちに反映できるように努力させていただきます。そういうわけで、新聞にチラシを折り込んだり、ミニコミ誌にもずっと掲載したりしています。できるだけバニラ＝若者というイメージで今日までできていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。



コミュニティビジネスの離陸応援事業のアドバイザーとして午前中に話を聞いたのですが、若い人向けのNPO活動ということで、NPO法人を取った方がいいという話をしました。次は、小森先生をお願いします。

ひょうごボランティアプラザの支援事業(小森星児氏:ひょうごボランティアプラザ)

今NPOの伝道師のようなことをやっております、ぜひNPOをつくっていただきたい。この間、姫路に「ひょうごまちづくりフォーラム」というNPOができましたが、兵庫県では特にまちづくり系のNPOがまだまだ弱いので、できれば各地に一つ二つそういうセンターができてほしいと思っています。

実は、こちらで立派な活動をしておられるのを今日初めてお伺ひしたのですが、ボランティアプラザでは行政・NPO協働助成というものをやっています。神戸まちづくり研究所、去年は1件、今年も1件受けています。来年はできれば、兵庫なり但馬なりの団体とご一緒にやれたらと思っています。また、貸付事業として、NPO応援事業というものを上限300万円、年利1.5%というかなり安い利子でやっており、ぜひまたご利用いただければありがたい。今年からは思い切って、保証人だけは別の人を立ててもらいますが、1号店をつくって2号店をやる時

にも貸せるようにしました。実際に、「よりあいクラブ」さんには、明舞で2号店を開くのに300万円、延べ600万円をお貸ししているのですが、事業が違うのだということでボランティアプラザとしてお手伝いをさせていただくことにしました。この明舞の2号店は、県公社所有の空店舗を利用して明舞団地の活性化のための活動することに対して、県が年間100万円を2年間にわたって補助する事業で開かれました。公募に対して7団体が応募し、5団体が3つのスペースに入っています。更に、その内の2団体には行政・NPO協働助成を出していますので、明舞団地再生が県にとっても非常に重要な課題であるということで、ボランティアプラザとしてはかなりどっぷり浸かっている形になっています。いずれにしても空店舗の活用というケース、そしてそれに対して家賃を支援するだけではなく、活動も支援するという形で進められています。

宣伝になりますが、この16日には篠山で多自然居住推進のワークショップを開きます。この多自然居住という概念そのものは、県でも考えてリーフレットつくって取り組もうとしていますなかなか進んでいません。我々の方も、始めた時は県がこういうものを行っているの知らなかったのですが、現実には様々な問題に取り組もうと、先ほどの行政・NPO協働助成のまち研の2番目の事業として取り上げています。来年度以降も、県民局と篠山市と一緒はこの事業を続けたいと、今日も丹波県民局から金野さんに来ていただいております。

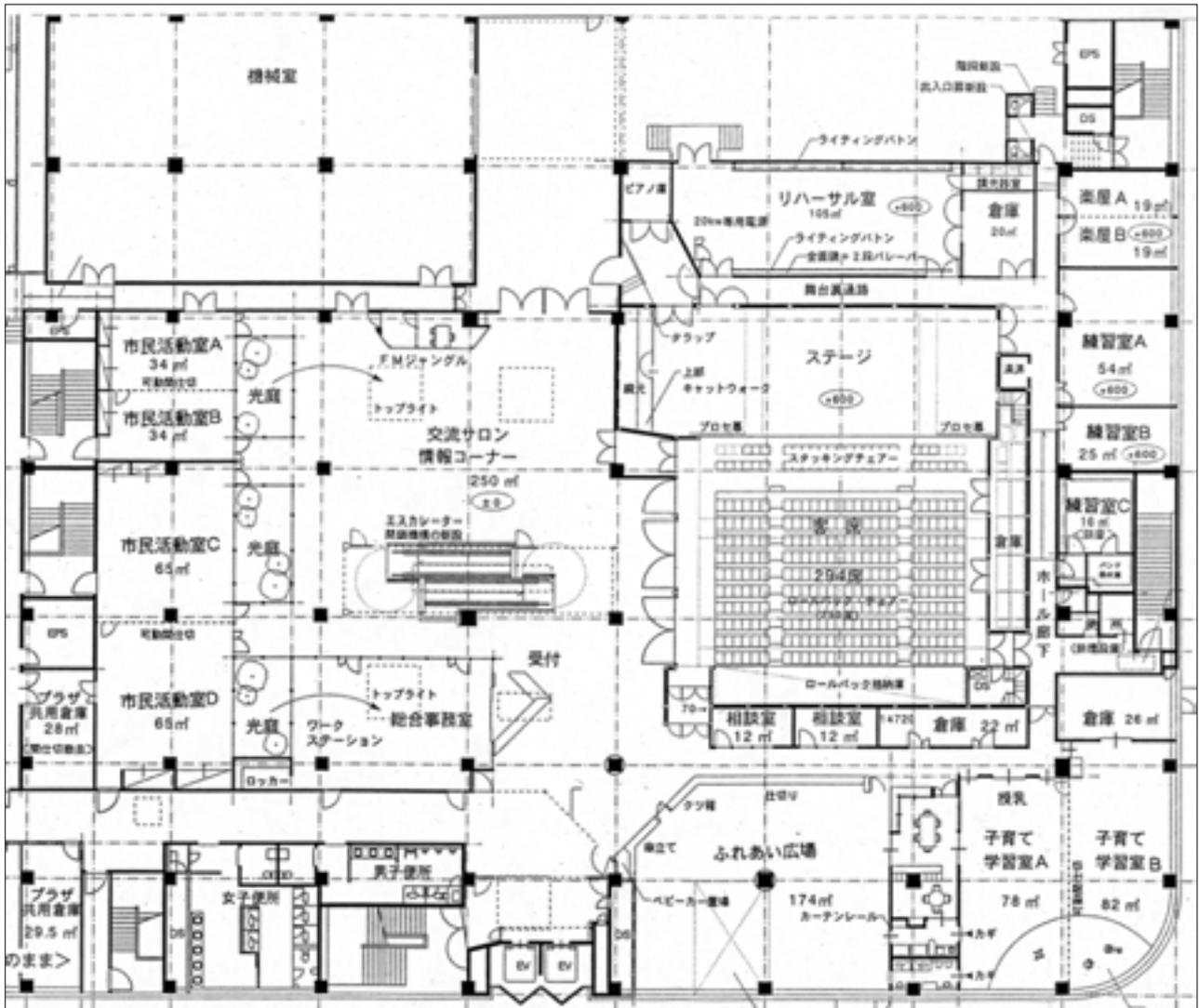
いずれにしても、まちづくりを行政や専門家だけに任せてはいけません。むしろ市民がやらなければいけないからこそまちづくりなのです。実際、「地域再生の推進のためのプログラム」(地域再生本部)というのがあり、その中にもNPOに新しく参加してもらった事業がいくつか例に挙がっています。たとえば、観光であるとか、あるいはTMOにもNPOが主体になってやってもいいとか、いろいろな形の改革がこれから進むことが考えられています。また、NPOとは直接関係はありませんが、地域再生マネージャー制度や地域再生伝道師の導入、地域再生支援チームの設置、地域づくり支援室などアドバイザー機能の強化など、いろいろな形で新しいメニューが提案されており、新しいチャンスが随分生まれてきています。ボランティアプラザのでも、できればそういう新しい事業に対して積極的に支援するという態度で臨んでいますので、いろいろご相談に来ていただければお役に立つのではないかと思いますので、よろしくお願いします。

豊岡が今どうなっているか。ここに来る途中にあるアイティの7階で今何が起きているかということ、担当者の三笠さんからお話いただけたらと思います。

豊岡市市民プラザオープンに向けて(三笠孔子氏:豊岡市企画課まちづくり係)

アイティというビルが駅前にあります。その7階を市が去年の春に買収して、そこを市民プラザとして整備しようということで、今工事が最後の大詰め段階で、4月29日にオープンの予定で進めています。図面の右側に300人規模のホール。その南側に子育て支援エリアとしてふれあい広場、子どもたちが遊べるスペースです。その横に子育て学習室があり、子育て創造センターという子育て支援事業をする施設が入ります。図面の右側には、市民活動室がA、B、C、Dとあるのですが、ここが主に市民活動を支援するための部屋としてつくっています。真ん中にある交流サロン・情報コーナーが、いわゆるプラットフォーム的なイメージで、オープンスペースを市民の皆さんに使っていただきます。これは誰でも自由に使えるということで、組み合わせのできる机・椅子とかを用意させていただき、わざわざ貸室を使わなくてもちょっとした打ち合わせやミーティングなどができるような形で使えます。その下の総合事務室の中にワークステーションと書いてありますが、市民活動の支援をしようということで、そこには主に事務機器、コピーとかいろいろな作業ができるスペースを設けています。

今まで豊岡には、こういう市民活動を支援するような場所がありませんでした。実際に森田さんとか一生懸命やっておられる方もおられますが、それが広く浸透していないというのがありました。それは、そういう場所が無いということもあるでしょうし、人がなかなかつながりにくいということもあるのではないかと思います。ですから、アイティは駅前ですごく便利な場所にあり、買い物ついでにちょっと寄れる場所ですので、そこでいろいろな情報を発信して、そこで情報を得た人たちが皆で何かやろうよというような形でつながっていき、いろいろな活動が



活発になればと思っています。そのために、4月29日にオープンした後、5月はオープニングイベント期間として、今までいろいろな活動をされてきた合唱の団体とかも含めて、この市民プラザが本当に市民のための場所になるようなイベントを展開します。プロを呼んでくるようなイベントではなくて、市民が自ら自分で、貰った参加費の中で賄うようなイベント、手づくりイベントをやっていこうとしています。今、ステージイベントとして12、他に市民活動室などを使ったいろいろな展示などのイベントが8ということで、20のイベントを1ヶ月通してやっていこうとしています。こんなことに使えるのだということが分かっていたら、こういうことをしようという方がここに集まってくるのではないかなという期待を込めて進めているところです。

工事がどうなのかということがありますが、いか設計集団の方がご設計ということで、1週間ぐらい前は全然何かどうなるかわからないような状態でしたが、この間行きましたら大体分かってきて、イメージ的には思ったよりすごくいいなという感じです。お金があまりかけられないので、本当に無理を言ってもらっているのですが、本当にイメージ的にはウディな明るいイメージでいい感じのものができると思います。皆さんもまた豊岡に寄られた時には駅前ですので、7階まで上がっていただき寄っていただきたいと思います。

市役所も駅前の空再開発ビルを何とかしようとしています。岩崎さんには、TMO とまちまち研究会のこと、市民と商店主たちとでどんなことをしようとしているかというあたりをお話ください。

公設市場の取り組みとまちまち研究会について(岩崎孔二氏:豊岡市企画課まちづくり係)

昨年4月にできたまちづくり係に替わるまでは、再開発でビルをつくっていました。その後、ビルを持っていた

三セクの調子が悪くなり、帰ってきて始末をしろということで、新市長ともめぐり合い、ワーワーやりながら、何とか三セクの延命措置を図りました。そのうちに7階を豊岡市が買わざるを得ないハメになり、同じ買うのであればいいものをつくろうと、思いっきり思いを込めたものをいるか設計集団と一緒に2年間議論をしながらつくってきました。行政が箱物をつくると、つくった後で人がコロコロ変わり、最初の思いが持続せず、後は大体皆ボロボロになっていきます。ですからここは、最初からNPOや市民に手渡しできるようなシステムにしようと考えています。

先ほど見ていただいた公設市場は、去年ああいう形でやったのですが、その1年ぐらい前にまち総の計画づくりから入りました。そういう中で、商工サイドから公設市場を何とかやりたいという話があり、予算を上げたら国の金が付いたのです。公設市場の皆さんも貯めた金があり、それに市が補助を出して、地べたについては道路だからまち総でやればいいのかという軽い感じで地元に入っていました。地元は皆、組合とかの組織があり、お金を出した皆でいいものをつくろうという話になるのかなと思っていたら、全然そうではなく一緒にやろうという意識は全く無く、金がついてしまったけれど地元はついて来ないという状態でした。しかし、金がついてしまった以上はやりきらなければということで、結果的にああいう形でできたのはできたのですが、結局、良く考えたら豊岡市は、今まで民間の方と一緒に共同作業をやったことが無いということに、はたと気がつきました。たとえば、まち総の中でポケットパークをつくろうという話があり、金を出せばつくれるわけですが、一方で公園の新築のトイレが3日も経てばガラスが割られたり、鏡が取られたりということがあります。行政がつくったトイレでは地域の人々の思いが全然無いわけですから、当然壊されて当たり前のような状態になってしまうのです。これは市としても一度つくるのではなく、やはりその地域の人たちと一緒に自分たちのまちだから自分たちで何とかしようという発想の中からつくりたいと無駄なものになってしまうということで、そういう計画は一切やめました。

それで地域の人たちと一緒に、とにかく自由に話せる間柄をつくらないことには全く駄目だろうということで、去年からまちづくり研究会みたいなものをやろうと動き始めたところです。吉川さんにお世話になって1回やりましたが、2回目あたりに来られた商店街の方々からいろいろ言われて続かず、そういうのを何回かやってきました。実は昨夜、第3回目の第1回目をやりました。そういうことの繰り返しで、まだ花が咲いていませんが、あわててやっても仕方がないのでぼちぼちやっといこうかという感じでおります。

……(小森)先ほどの行政・NPO協働助成は、行政(豊岡市)にNPOが提案するものに支援するというものから、もしNPOやNPOに順ずる団体からの提案があれば、喜んで支援させていただきます。

まちづくりNPOがほとんどなくて、TMOやまちづくり会社とかが先行しているので、こういう話がなかなかすんなりいかない状況のようです。では、県の方からTMO関係の担当である荒谷さん、お願いします。

……(森田)中央公民館から公設市場やアイティを見ながら歩いて来られて、ここに来るまでの印象を言ってからご意見をいただけたらありがたいです。

豊岡のTMOについて(荒谷一平氏:県土整備部まちづくり課)

去年の終わりぐらいから、岩崎さんや三笠さんの話を聞いていたので、ちょっと変わってきたかなという印象です。それまで豊岡というのは、ちょっと冷たいなというのが正直なところでした。たとえば但馬で言うと生野は、賑わいとかは何も無いのですが、落ち着いた、非常にしーんとした真面目な、床の間に座っているみたいな感じがあります。子どもたちは、こんにちはと声をかけてくれます。すごく心が洗われるような、ここだったら鍵を開けておいても何も取られないなと思うわけで、城崎にしても出石にしても、まちが温かい。何かこっちを見ているなという、相手を意識した感じがあります。豊岡には何回か来ていますが、殿様商売のようなところがある。情報公開と一緒に聞かれたら教えたるわというのと一緒に、商売も言われたら売ってやるわという面があったのかなと思います。そういうのはいけないと、岩崎さんや三笠さんが頑張られて、こういうNPOの拠点までできるということで、やっと豊岡が動き出したなというように思っています。

TMOについては、こちらから積極的に聞いていないこともあるのですが、話が全然入ってきません。その辺で、やはり県と市長の関係というのをこれから考えていかなければいけないというのがあります。市長が県に来ると言えば要はお金を貰いに来る時、県から市長と言うのもお金が介在しているというのが、これまでの県と市長の関係でした。金が無くなったら来ないでは本当に仕事にならないので、根掘り葉掘り聞くのも嫌ですけども、こちらからまず聞いてつながっていくと、中心市街地活性化やTMOに関して、県と市長の関係を、お金が無い中での関係というものを、どうしていけばいいのだろうかと悩むところです。

TMOの話では、黒壁と出石は多分日本で最も良くできた状況ではないかと思います。フォーラムでは、まちづくり公社の話はあまり出ななかったので、上坂さんにそこを中心に出石のTMOの話をしていただきます。

出石まちづくり公社について(上坂卓雄氏:出石まちづくり公社取締役)

昭和63年に全国から来てもらって兵庫まちなみゼミが出石で開催され、私は一生懸命やりました。その時に参加した婦人の方から、「出石の女の人はどうしていますか」と痛烈なことを言われ、それがすごく堪えました。それから皆で、女の人に声をかけて入ってもらおうと話合ったのですが、結局私個人で判断して、急にそんなものに入るよりも、出石にあるいろいろなサークルの人たちをまとめて、女性たちだけのまちづくり協議会を立ち上げました。そして私の裏の倉庫を使って、サークルでつくった小物やエコ商品を観光客に売っています。儲かったら家賃を貰いますと言いながら、今で4年目くらいですがまだ貰っていません。今、その仲間が7~80人ぐらいになります。これを、ちょうどここで考えておられるように、中心市街地の空店舗に結びつけて、店を出すような段取りができないかと思っています。女性は男性と違ってしがらみが無く思い切ったことが言えますが、最初は近所の人がいる言うから出られないという話がありました。それでも最近は仲間が増えて、いろいろなことをやっています。今度の出石築城400年祭で、彼女たちもイベントを一つ担ごうかというぐらい思っていますが、ここは次の2号店を自分たちでやろうとしていっしょやる。非常に感動しました。これを誰かが応援してあげなければいけないし、まちづくりは自分たちでやる。行政は、企画をどんどん進めるのではなく、こういう運動を支えることがものすごく大事なことです。そこへ専門家が知恵を貸していく。ですから森田さんのやられていることの橋渡しを、何かしてあげるような組織がほしいと思います。

出石のまちづくりNPOですが、先ほど話があった長浜の黒壁さんと出石は好対照で、向こうは少人数の株主で大きな資本でやっています。その方が、何か企画すればすぐやれますし、思い切ったことができます。しかし、私のところは、大勢の町民に声をかけながらまちづくりをずっとやってきました。ですから今度のまちづくり公社をつくるのも、観光協会の事業部門を法人化するというので、町民皆に一般公募をかけました。資本金5千万円の半分を町が持ちまして、2千5百万円を一口5万円で募集しました。私も発起人で、もしも集まらなかったら頼んで回らなければと案じていましたが、オーバーしてしまい、一人一株にしてもらいました。当初3年は配当無しでしたが、去年は3%の配当がつきました。この会社は町の施設を兼ねていて、家賃などもきちんと払っています。それで、去年やりました中央貸店舗も町営地につくったのです。10年分の家賃を先に払いました。しかし今後、町が合併してからどうなるかという心配がありますが、うちの場合は優良企業できっちり儲けています。観光客用のお土産の蕎麦でも儲けているのですが、そういうのは民業圧迫になるからなるべく民間に渡して、公社は公社しかできない仕事をやろうということで空店舗事業を始めました。これは人に直接貸すのは心配だが、公社であれば貸すということがあり、公社が借りて貸すということをやっています。今職員に、空店舗に入ってもらうだけでなく、後の経営指導もすると、新しい仕事をどんどん探せと言っています。TMOとしては参考にはならないかもしれませんが、長い間かかったまちづくりを、皆でするのだということがまとまりました。

県との関係は、おもしろいのです。観光協会の事業部門を法人化しようと思い10数年前から研究して、これはどうしても株式会社しか仕方がないということで進めていたのです。そうすると県と大阪通産の方が、ちょうど中心市街地活性化にあてはまるからと言われ、あわよく乗って全国で1番最初の事業ができたということなのです。

ところが不満があったのが、建設省や通産、皆一緒にやる大きな事業だったのですが、いよいよやると商店街だけの中小企業商業者のための事業だと。私たちは、もっと広い範囲でいろいろなことができるつもりでいたのに、おかしいのではないかという思いがあります。県の方はそうでもないのですが、最後に経済産業省にいろいろやり直しをさせられました経過があります。

■ 次は、フォーラムで言えなかった話を含めて、小浦さんをお願いします

豊岡の中心市街地活性化(小浦久子氏:大阪大学大学院)

神戸市のスポット創生事業のように、要するに市が1回借りて貸すことによって、貸す方の人に対する一定の信用と信頼が生まれます。それから返せという時に返せるという、時間的なケアのような仕組みをやればいいという話を豊岡でもしました。(上坂:これは市や商工会がやるのは非常に難しく、TMOが一番やりやすい)

結局、豊岡の場合の中心市街地活性化は、すごく形式的と言うか、役所的に収めることを求められたのです。それで、全国バージョンになってしまったのです。本当はもうちょっとできることを、分厚いものをつくらずに薄くてもいいから、できることを書くということをしたと思っていたのです。それで、どこがTMOをするかという話にしても、いろいろ選択肢はあったと思うのですが、何となく全国バージョン的に流れていった。まちづくり会社だって確かにコケそうだったかもしれませんが、うまく使えばもっと使い方があったと思ったのです。(上坂:会社の責任者は一般募集した。4~50代の管理職クラスが大勢応募してきた中から選んだので、新しいことを企画する。)

そうですね。もうちょっとオープンにやったらよかったと思うのです。やはり、5万人の都市でやると、組織が結構ピラミッドになってしまい、世代交代が全然進んでいかない。それを変えるだけでも、絶対変わっていくというふうに私は思います。それでTMOの情報が入らないとかおっしゃっていますが、それは別にいいのです。県が知らなくても、地元が元気であれば別にいい話で、それをモニタリングしてもらっていただければいいことだと思うのです。そういう問題ではなくて、豊岡の場合は若い層をうまく表に出していくとか支援していくような仕組みの方が大事だし、上の人の機嫌が悪くならないようにすることも大事なのです。そこをうまくやる人が大事だと思ったのです。うまく次へのつながりができるように、今が一番大事な時期だというふうに思います。豊岡には結構すごい人材がいるのです。だから発注の仕組みをもう一度良く見直して、外の業者へ出すのを全部、市内のそういう技術を持っている人や、やろうという人に出しなおすということを市も考えたらいいと思うのです。(森田:地産地消という言葉がこれだけ広がってきているのに、市のどんな商売に地産地消があるのか。それを行政はもう一度汲み上げないと、どんな知恵があっても、宝の持ち腐れになってしまう。)

役所がなぜできないかという問題は、我が国の構造的な問題だと私は思っています。今は私たちが何をするかということで、和田山はそういう話はどうなっているかを木村さんをお願いします。木村さんは、和田山の竹田城の下の綺麗な景観地区の中で、虎臥城、お酒屋さんをしています。

和田山での取り組みについて(木村昌史氏:和田山木村酒造場)

話をされているのをずっとお聞きして、納得と言うか、相槌を打つだけのすごく分かりやすい話でした。実際、僕は今33ですが、何かをしようと思った時に、まず場所が無いのです。どうしたら始められるかという制度的な知恵が無いというところが一番大きいのです。それで、こういういろいろな活動をされていて一番いいのは、人がされているのを見ると、自分もしたくなるというところが一番大きい。されていること自体が成功するかどうかは二次の話であって、仮に失敗する要素があれば、もっとこうした方がいいのではないかという話が回りからできる。ただ、全くその材料が無いところには、そういう話は持って行きようがありません。

実際に竹田でも空き家がすごい多く、今どうやってその空き家を使おうかという話をしているのですが、やはり貸す方が貸しにくい。先ほどのように公社が1回クッションになって貸し出すという方法が一番いいと考えているのですが、竹田の場合は出石とは違って、そういう組織自体が、まちづくり組織が全く無い状態なのです。今年

は、ぜひそういったことを発起人として5人でも10人でも集めたいと思っています。

そういったところで、とにかく場所がほしい。そして先ほどありましたように見守り助言してくれる人がほしいというのが若い人から言えば一番大きいと思うのです。今何か仕事を始めたら帳簿というものが出てきますが、その辺のことを教えてくれるとか、なかなかそういうのは会計事務所に行って教えてくれとは言えませんし、司法関係の事務所に行って教えてくれというのもお金のかかる話ですので、とにかくそういう相談窓口さえあればと思っています。若い人はしたい時は次から次へと湧いてくるのですが、なかなかそういうきっかけがありません。何がきっかけになるかは、先ほども言ったように、人がやっているのを見る機会がどれだけ増やせるかということだと思います。

小山さんは、参画と協働の研究会でお越しいただいたと思います。その後それはどうなったかを含めて、何をされているのか、お話をいただけたらと思います。

参画と協働の研究会(小山光男氏:参画と協働の研究会委員)

私は一般会社員で、こういう話を聞かせていただくのも今日が初めてなのですが、実は参画と協働の研究会のメンバーになってくれということで参加させてもらっていました。その中でいろいろと聞かせていただいたり、こういうことをやったりすればいいのだなということがあり、出させてもらっていたのですが、私はどちらかと言うと基本的にはボランティアの方ですとやっております。障害者の人が会長なのですが、発表する場とかも含めて、その人たちがいつでもどこへでも行けるような、そういうものを経験したと記憶しているのですが、結果をどういうふうにまとめたかというのは今思い出せません。

今回アイティの7階にこういう施設ができるということで、こういうふうな発表できる場をどんどん増やしていきたいと思っています。今年で10回目になるのですが、障害者の方たちの年1回の発表会があります。出石や城崎、竹野も含めて、そういった作業所や養護学校の方で6月に発表会をさせていただきます。それには費用的なものがやはり必要で、一般の方にいくらか出していただいて、それでもって発表させていただくという格好でさせていただきます。皆さんのおかげで10回目を迎えることができるというのは本当に私もうれしく思っております。そういうことも含めまして、そういった発表できる場を無料でしていただけることとかができれば、なおそういう人たちも一杯出て来られるのではないかと思います。それがまず一点です。それから昨年でしたか、先ほど駅前が閉まっている店が多いという話がありましたが、障害者の方たちの作業所でつくった商品を買うと言うか、一般の人に見ていただける場所があったのですが、それも数ヶ月で閉まってしまい、次の人が入っておられます。できましたら、そういうものもずっと見ていただける場所があればと思っています。そういうことで、皆さんにも協力をよろしくお願いしたいと思います。

というようなご意見が出ましたが、せっかくできる7階をどう使ってほしいというのを、皆さんがおられるので、設計者としてはいかがですか、有村さん。

市民プラザの設計者として(有村氏:いるか設計集団)

初めて私が7階に伺った時は、ガチャガチャしていて、ここは使えるのかというのが第一印象でした。ゲーム機が一杯置いてあり、真っ暗で不健康で、これを市民プラザとか市民交流サロンにつくりあげるといのはどうしたらいいのだろうというのが一番のテーマでした。さっきも見ておなければと思って見てきたのです。良かったなと思ったのは、とにかく屋根に一杯穴を開けて、光を一杯落としたのです。そうしたらその真っ暗な嫌な印象が、上から光が落ちてきていて、これであればまあいいかなと思いました。それから木材をふんだんに使って杉板を貼り、ものすごく自然な感じにしました。杉板は下手な使い方をするとか何か重いのですね。それも心配していましたが、いい杉板を選んでくださっていて軽い感じになって良かったと思っています。7階まで上がるのは大変だと思いますが、駅に近いし、上がれば何かパーッと明るいうッディな空間が広がるというふうに思い、ちょっと安心

して帰ってきたのです。

去年設計したのですが、その前の年は岩崎さんや三笠さんと一緒に、市民のユーザーの方たちと何度も何度も会議を積み重ねながら、使われる方の意見をお聞きしていました。その時にすごく感じたのは、先ほどどなたかが言われたように、豊岡には活動もあるし人材もいらっしゃる



のです。特に子育ての方たちはすごく一生懸命で熱心で、珠玉の子育てをやってらっしゃるのです。これは空間ではなくて、やっている方が素晴らしい。だからちょっと建築家としては無力感に襲われますが、ものすごくいい活動をされておられます。それから演劇関係の方や、ハンディキャップのある方たちを支えている方とか、そういう一つ一つの人材がいて素晴らしい活動があるのだけど、そういう活動をしている方たちがすごくシャイなのです。主張しているのと勝ち取っていくこともすごく大切だと思うのですが、私の印象としては主張されないように見えました。そういう方たちをもっと引き出して積極的に使っていただくといいですし、交流サロンやプラザが、始めにどういう形で動いていくのかは分からないのですが、将来的には行政の手から離れてNPOの人たちやボランティアの人たちが、本当の意味の使いたいように使うと言うか、軌道修正しながら使っていただくといいと思っています。

それからステージは300席近いもので、市民の演劇や音楽の芸術活動には一番相応しい数ではないかなと思うのです。これ以上小さいとちょっと入りきらないし、これ以上大きいと人を呼ぶのが大変だということがあるので、この豊岡にはこれくらいの規模のステージが必要ではないかなと思います。これは我々の意見ではなくて、文化活動をやっている方のご意見でした。明かりを入れたこととウッディにしたという二つぐらいが設計者の役割で、後は使われる方のご意見と法律、消防署の言うこととかの法律でつくりあげています。

■ (質問) 公設公営で、運営の体制はどうなっていますか。

市民プラザの運営について(岩崎孔二氏:豊岡市企画課まちづくり係)

スタートは公設公営です。左側の交流サロンは、ほっておいても集まってきてやってくれると思っています。右下の子育ての部分も、子育てのグループがあるのでお任せするつもりです。右上のホールをどうするかということで、実はこういうホールとかが好きな人たちがいるのです。豊岡の市民会館に入っている業者さんを口説いて、去年の夏休み前からスタッフ要請講座をしまして、15~6人の照明、音響、舞台のスタッフが何とか育ってきています。その集団を、この4月には立ち上げて、ホールのスタッフとして支えてもらいます。それから、オープニングイベントをきっかけに、いろいろな市民の固まりができてつづります。たとえば、若い連中にここを一晩貸すから何かしないかと持ちかけると、ダンスとバンドをやっている連中、今までそういう組み合わせが無かったのですが、これをきっかけに集まり始めたということがあります。そういうふうにはスタッフと演じる側と、それから新しい動きも始まってきたので、ここから何か生まれればと思っています。

おもしろいのが、地元映画館が1軒あり、そこをやっている方の思いが非常に強くて、映画をとにかくやりたいとからと、35mmの映写機をやるわという話になっています。ここはどちらかと言えば、16mmやビデオプロジェクターのイメージですが、とりあえずいただけるものはいただいて、市民で定期的にニューシネマパラダイスをや

っていこうということも動き始めています。おもしろがって集まるような仕掛けがいくつかはできたので、後は中身を皆で寄ってたかってやっていこうと、運営委員会みたいのも今からつくります。行政が考えてもろくなことを考えませんので、そういう人に集まってもらってやっていく方がいいかなと思っています。

子育て系とアート系と NPO 系が一緒の場所にいるというのも、おもしろい化学反応が起こる可能性があります。そのためには触媒の役割は大きいと思います。次は、TMO の話を山根さんからお願いします。

TMO 構想とコミュニティビジネスについて(山根修一氏: 県土整備部まちづくり課)

今日市中心市街地活性化支援フォーラムは、小浦先生から豊岡市の中で頑張っている職員がいるから、その職員が市役所の中でちゃんと動けるようにしてほしいと県に話がいったのが始まりだと思うのですが、それで岩崎さんたちに話を聞かせてもらいに行きました。対象が TMO で親元がありますが、兵庫県としては商工会議所にすると動きにくいということもあるし、会議所の方はどこかに臍履してはいけなから喫茶店にも行けないというような世界とお聞きしています。やはり中心になって進める組織にならないかなという思いです。それで、今日も TMO はお見えになっていないと。市の方とお話させていただいて、森田さんのようなやりたい人たちが動けないと言うか、そこを支援する TMO 構想にはなかなかならないのではないかなというふうに感じていました。先ほど小浦先生が言われていましたが、具体的にすべきこと、ちょっと考えればできること、時間をかけてやることというのがなかなかです。全部まとまらないとできないであれば、まとまったところからやればどうかと、公設市場の話を進めてもらっていたら、ちゃんと地元の意向が集まってからやれとか言われて、岩崎さんが困っておられる状況になっている。今日お話を聞いていて、人材がたくさんおられて、やりたい方たちのグループがあれば、その人たちを具体的に支援するような TMO 構想にしないといけなのではないかなというのが一番です。出前講座の話も、出て行っていいとずっと言っているのですが、全然お呼びがかからない状況でして、またいろいろ一緒にやれたらと思っています。

コミュニティビジネスの話は、これまで 17 年やってきた作業所が、2 月の末にやっとミニ社会福祉法人の認可を取りました。今までは社会参加ということで、自宅にいるよりも街中に溜まり場をつくって、社会に出て行く拠点になるようにと、作業所で共同購入をやったり、自然食品のお店をやったりしてきたのです。今から先は地域で暮らし続けることをミッションにして、グループホームとかを今までやってきたメンバーでやろうとしています。但馬の場合、車椅子の人は雪があったら大変で、やはり生活の中から見た時、本当に安全で安心に皆が暮らし続けられる場所は本当に大事だと思っています。コミュニティビジネスは、子育てや家のローンが終わって余裕ができてやるのかもしれませんが、私もやっていてお金のことでいつも苦労しますし、当面は事業的にはそんなに儲けなくても片手間的にしかできないでいるのですが、市民のニーズを広く吸い上げることができるグループがあると、そういう人たちが自己実現的にやれるようなやり方であれば、あまり無理をしないで展開できるのではないかなと思います。ですから、具体的に何かしたいという人が、それができる状況になるように行政は支援しなければいけないと思うのです。人が集まってくる場所を活かせる人たちが、どのように活かせるかという提案を受けられるようなやり方がないかなというふうに思っています。

吉田さんは、小山さんと同じく参画と協働の委員会のメンバーで、去年何度か一緒にワークショップ受けさせていただいた一人です。せっかく来られていますので一言お願いします。

ワークショップに参加しての感想(吉田カオリ氏: 参画と協働の研究会委員)

今ご紹介いただいたように、昨年まちづくりの方でいろいろな方と接する機会をいただき、自分なりに知ることや知らないことをいろいろ教えていただきました。その時は、市民と行政とだけでまちづくりの話を進めていたのですが、今までお話を伺っている中で、市民と行政だけでなく、その間にある企業や商店の方を交えて話を進めないと、本当のまちづくりは進まないというような印象を受けました。市民と行政だけでは限られた輪にしか

ならなくて、それ以上の広がりがないとまちづくりは軌道に乗らないような気がしました。企業の方は、自分の企業をもっと成長させるというのが一番の目的にあるわけで、それを無視して市民のためのまちづくりをしてしまうと対立してしまう。やはり本当の意味で協働に移そうと思うと、企業や商店の方を交えてワークショップなりの機会をつくって進めないと、机上の空論という言葉もありましたが、そういうことになりかねないという気がしました。

■ 全体としては、これぐらいで終わりにしたいと思います。最後は、野崎さんからのまとめをお願いします。

ま と め(野崎隆一氏:特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所)

今日はいろいろな意見をありがとうございました。実は私も八鹿と日高の両方で、中心市街地活性化の対象地域でまちづくりをやっているのですが、一つは市民側の合意形成をどうやるかというのが一番大きな問題です。行政側が計画をつくってどんどんスケジュールで走ってしまうのは、市民側の合意形成を待ってられないというところがあるのです。その違いが、行政との協働という時に噛み合わない一番大きな原因ではないかという気がしています。そういう意味では、行政側も少しペースを落としていただいて、市民側の力量が整うまでじっくり待ってもらおうということが必要ではないかという気がします。

また、私もじっくりと豊岡のまちの中を見るのは初めてだったのですが、なかなかまちづくりの気心をそそるまちだという印象を持ちました。こういう立派な市民プラザができ、それを運営する会議みたいなものが核になり、NPOをつくるかして、そこから活動が生まれるというのは充分有り得ると思いますので、そういうふうになれば楽しみだと思います。

■ ありがとうございました。後はまだ発言されていない方もいらっしゃいますので、紹介を兼ねて一言だけでもご発言をお願いします。

(川村) 神戸まちづくり研究所の事務局の川村と申します。このワークショップの記録を担当しています。

(山根) あの、まちづくり課立地調整係の山根でございます。

(上坂) 出石の上坂でございます。

(木村) 和田山町で酒屋をしています木村です。

(金野) 丹波県民局でまちづくり課長をしています金野です。

(小森) 小森です。金野さんからご報告いただかなければならないのですが、実は先日、柏原のまちの中で1軒だけ茅葺の民家が残っていて、それが潰されるという話がありました。リサイクル担当のところへ来て初めて分かるという妙な話なのですが、金野さんが召集令を発したら、たちまちたくさんのサポーターが集まり、そのせいかどうか昨日ほぼ移築保存の見込みが立ったということでした。表彰状を差し上げないといけなくらいですが、金野さんのご紹介を兼ねて、またお話を聞きたいと思います。

しかし今日の会議で一番不思議なのは、ほとんど女性がないということです。先ほど話がありましたけれど、まちづくりは女性から。兵庫県のNPOの理事長の3分の1は女性です。やはり、女性がまちづくりで元気にならなければ見込みがないので、ぜひよろしく願いいたします。

(野崎(瑠)) 野崎でございます。神戸まちづくり研究所の野崎の妻ですが、遊空間工房という設計事務所をしています。私は、東京の時から友だちの有村さんと最初に神戸でいるか設計集団をつくって、18年ぐらい前までやっていました。夫がNPOの理事をいくつもしていて一生懸命がんばっています。今日は事務所の女の子も仕事しておりますが、私たちはここに来ております。これからもよろしく願いします。

(有村) いるか設計集団の有村と申します。私はこの豊岡には随分といろいろお世話になっているのですが、去年の5月ぐらいに、ドイツのベルリン工科大学のハーン教授をご案内して来たのです。ハーン先生は、ドルトムントと言う、産業で無茶苦茶まちを壊した1900年の始めのまちの再生プロジェクトをやっておられる方なのです。それで、その方を連れてこのとりのお館に行った時に、すごくきれいないい環境なのに、どうして

誰も歩いていないのだと言われたのです。結局、グリーンツーリズムに最も相応しい場所なのに、誰もグリーンツーリストが歩いていない。これは住んでいる方たちがもっと呼びかけて、グリーンツーリズムを盛んにしないと駄目ではないかとハーン先生に叱られ、なるほどと思いました。私は、豊岡は本当にいろいろな可能性を持っているのに、人材も含めて潜在的資源を有効活用できていないまちだと思っていますので、これからが楽しみではないかと思えます。

(三笠) 豊岡市企画課の三笠と申します。ちょっと前までは、まちづくりというのにはあまり関わっている職場ではないところはずっといたのですが、ここ2年ほどバタバタとこういう感じで皆さんとお知り合いになってきました。豊岡の人は、雪が降るし暑いしと、どちらかと言うと悲観的に言う人が結構多いのですが、これだけ豊岡のファンの人がたくさん来られるというのは、改めてうれしいと思いました。そこに住む人がもっともっと本当に自分のまちを好きになっていかないといけないというふうには思っています。

(小山) 小山と言います。先ほど言うのを忘れていたのですが、市も今度防災無線というのが付けられました。ネットというのがすごく大事な時期になってきているので、防災時だけではなくて、一般市民にもこういう情報をどんどん使っていただいたらいいのではないかと、市長に言わせていただきました。

(吉川) コー・プランの吉川です。岩崎さんからご紹介いただきましたように、街中のにぎわいづくりについて、住んでいる人も商売をやっている人もざっくばらんに話せる場をつくろうということで、夏ごろからまちまち研を始めています。最初はなかなか人が集まってもらえなかったのですが、ようやく少しずつ顔も見えてきました。やはり住んでいる人も商売をやっている人も、皆それぞれ思いを持っておられることが分かってきて、これからは楽しみだと思っているところです。

(藪本) 兵庫県のまちづくり課の藪本と言います。中心市街地活性化の仕事をやり始めて、まだ4年目です。1年目に、出石の話をして上坂さんに来てもらいました。30分では語れない中身のあるお話をしていただき、非常に目を開かれたと言うのですか、やはり出石町が中心市街地活性化の本当にいい例だということを僕らは言っています。長浜も有名ですが、長浜とそんなに大差はなく、兵庫県の我々まちづくり課としても、出石町は非常にいいモデルだと言っています。ただメディアに長浜があまりにも出すぎているので、その点が非常に出石町さんは損しているなと思っています。できたらこういう資料を、関係者の方々でつくってもらえないかといつも言っていますが、なかなか実現しません。中心市街地活性化の話は非常におもしろいので、できたら今後も何らかの形で関わりたいと思っています。

(吉田) 吉田と申します。私は去年のまちづくりをきっかけにいろいろなことに顔を出させてもらうようになったのですが、はっきり言ってそれまではまちづくりには無関心層の代表みたいな感じでした。いろいろ勉強もさせていただきましたし、意見も言う機会もいただき、ちょっとはまちづくりに関われたという気にはなっていますが、まだまだ無関心層の代表を脱していないような気がしますので、今後どう自分が変われるかなと思っています。

(岩崎) 豊岡市の企画課の岩崎でございます。先ほど情報という言葉がありました。実はアイティの2階にコミュニティエア局、日本一小さいFM局があり、そのサテライトを7階につくろうと今同時進行でつくっています。これは経済産業省の補助でFM会社がやるのですが、裏や天井でラインをつないで、市民プラザの情報やホールでやることを全部FM電波にのせたいというふうには思っています。

(小浦) 大阪大学の小浦と言います。この豊岡には本当にいいところ一杯あるのだけど、住んでいる人がそれを誇りに思ったり好きになったりしていないところも一杯あるのではないかと思えます。非常にもったいないというのが私自身の印象なのです。さっきのシンポジウムでも言いましたように、周りの環境はすごくいいのです。谷すじごとに文化があると言われていますが、確かにそれだけの文化の蓄積があります。そういったものが、皆の意識にあまり出てこなくて、すごく発信力が弱いという気がするのです。これだけあるものをうまく表現して、もっと出していくということも大事ではないかと思えます。これからもファンを続けますので、よろしくお

願います。

(野崎) 野崎です。兵庫県の NPO と行政の協働会議というのがあり、私は NPO 側の幹事をしているのですが、実は昨日その出前協働会議というのを淡路島でやってきました。そこで問題になったのは、NPO やボランティア団体が 30 団体近く来られたのですが、福祉系の方はほとんどいなかったということです。淡路島は福祉の数がすごく多くて、NPO も福祉系が多いのですが、そうではない環境系やまちづくり系の人がたくさん来られました。なぜそういう人たちが集中したのかと言うと、地方へ行くとボランティアとかは全部社協の管轄になっています。そうすると社協の窓口になる行政窓口はあるけれども、社協の活動から外れた環境やまちづくりの NPO は、町単位では窓口がほとんど無いのです。町の役場の人も、そういうようなものに対して、NPO って何なんやというような感じで全然認識が無い。そういう日頃の鬱積が溜まっていて、呼びかけたらそう人たちがたくさん集まったところなのです。逆に福祉とかは、他の分野とあまりつながってこない。でもまちづくりというのは、いろいろな分野をつなぐ役割があります。そういう意味では、やはりまちづくりが元気なところはまちが元気になる。いろいろな活動をつなげる能力があると思います。ぜひ豊岡でも、まちづくりで頑張ってください、そういう NPO が頑張ることが一番我々としてもうれしく思います。

(荒谷) 県の県土整備部の荒谷です。最近特に思うのですが、但馬というのは、やはり人を大切にされているところだと思います。この豊岡のフォーラムは二期でやったのですが、播磨というのはやはり豊かなところなのです。比較の問題なのですけれども、但馬はそんなに豊かではないということで、そこで何に投資するかと言った場合に、教育や文化に投資してきた歴史があります。但馬の出石の話をして、斎藤隆夫さんの話が絶対出るのです。教育や文化というものをやってきた歴史というのが、やはり但馬のすごいところだと思うのです。それで、但馬の役場の若い職員でいるだろうと聞くと、見たことないとか聞いたことがないとかで、それは駄目だろうというのが非常に最近寂しいところです。

(村上) 但馬県民局のまちづくり課の村上と申します。私は、去年 4 月に単身赴任で豊岡に参りました。豊岡のアーケード街にはこのとりがついているのですが、首が折れていたりしてちょっと寂しいと思いました。そのアーケードを変えとか変えないとかいう話があるようですが、残っているいい建物を見せたい、見せたいが豊岡は雪が降るからアーケードがあるということで、なかなか難しい状況だと思います。そのあたりを市民の皆さんで考えていただきたいと思っています。私は、まちづくり課と名がついていますが、本庁と市長の中継ぎをやっているみたいなものでして、唯一つ去年、空き家活用ということで但馬田舎暮らし、スマイルネットというものを立ち上げて空き家の情報を提供しようとしているのです。ただ、空き家がありましても、住まわれている方が出たくないとかの障害がたくさんあり、それをいかにしていくかという問題がまだまだあります。検討会である程度方向をつけようということで、NPO のような団体にコーディネートをしてほしいというような結論に達したのですが、ほんまに誰がやるのだという話が出てきています。今、但馬の方は合併ですのでちょっと動けないと思いますので、2~3 年後からまた始めようかと考えています。

(森田) 始めにお話させていただいた森田です。高校の教員でしたが、よその子どもばかり賢くなって我が子はどうだろうと手元足元が気になり、学校に行って子育てしながら、何かまちのために、今教えている子どもたちがやっぱり豊岡がいい、但馬にいたいと言えるようになってくれるにはどうしたらいいかということの日々ずっと考えていました。家業は今年 400 年を迎えます材木商でございます。材木も今一生懸命地元の木材を使おうと農林さんが力を入れています。小森先生が今度丹波に行かれますので、できるだけ丹波、但馬の材木を使っていただけたらと思います。今日本国内のシェアは 60%以上が外材ばかりになり建設業界は大変落ち込んでおりますので、内地の地産地消していただけたら、まちづくりはそういうように興すということも大事だと思います。今度合併するということで何がうれしいと言うと、まず大きくなる方がいい、気持ちが大きくなります。これまでは、豊岡は城崎温泉の隣で、出石のあの有名な小京都の隣だと言わなくても、豊岡市になるわけです。若い子たちも、今度京阪に出る、都会に出る、中央に出て行って郷土はと言われた時

に、あの城崎温泉、あの出石のまちですと言えること大変いいことです。豊岡市民にとっても、逆にそういうことを宣伝すると、住み手は自然に入ってくるようになります。つまりこのまちの活性と意気込みと心意気と情熱を持ってまちを好きになってくれたら、必ず人は来ます。貴重な価値の財産と言うか、知的財産につながるほどのものがあると思っていますので、但馬が一つという気持ちでまちは興していかないといけません。

今、岩崎さんや三笠さんが一生懸命に豊岡のまちづくりのために頑張っているのですが、悲しいかな行政の方々は長くて3年で、次の課に移動したら他人事です。このお二人はそういうことは無いと思いますし、期待していますが、行政は次に違うところへ行けばやったことがあるで終わってしまうので、行政と組む時に一番怖いのはそこなのです。ここを興す時も一言も行政と相談せずに、やるという意気込みと行動力のある人たちでやってきました。だから行政はあくまでもお金さえつくってくださったらいいわけで、使い方は意外と商売人を中心としたまちの人間の方がよっぽどうまいので、私たちがどんなやり方でも使っていきます。豊岡市を例にあげたら、公民館だの文化会館だのは、全部行政の天下りの方が名ばかりで来ています。それはおそらく人件費の節約からきているのですが、そういった形になると結局は守りの体制で維持するということばかりで、広がりがないし強さがないし、魅力が無くなってしまいます。

そういった意味で、外から来た人たちがもったいないと言ってくださる声が、ものすごく励みになります。小森先生が丹波を選ばれたのがちょっとショックですが、都会人の方がセカンドハウスや新しいリゾート、新しい自分のライフワークを考えた中で、但馬がいいのではないかと選んでくださる声が聞こえることを願い、お待ちしております。

ありがとうございました。昼間のフォーラムでの豊岡市長の挨拶の中に、これからは交付金などをあてにせずに身銭を切ってやらなければいけないという話がありました。基本的に合併を金目当てにやるというのは間違っていると思っていますので、市長がああいう形で話されたのは大変いいことだと思います。化学反応を期待するというのも、森田さんが言われたように、せっかく一緒になるのだから刺激を受けて何かをするというような、どうせするならプラス思考で考えればいいという気がしています。ずっと生野に付き合っていますが、明治になって町制を引いてから町のままのまちはいくつかしか無いようです。その生野も和田山と一緒にになるので、5千人から6倍のシェアに増えるという話をしたのですが、今日の豊岡市長の、化学反応を期待するというのはなかなかいい言葉だと思っています。そういう意味では、行政とNPO、それから市民と商業者とか、いろいろな人が化学反応を起こす、要するに一緒になれば違う世界があるかもしれないというだけでも、何もしないよりはいいのではないかという気がしました。後1時間ぐらいありますが、全体ではここで終わりにして、後はフリートークということにしたいと思います。

<この後、約1時間のフリートークの後、解散した。>

(特)神戸まちづくり研究所	http://www.netkobe.gr.jp/machiken/
Vanilla City	http://www.vanilla-city.com/
ひょうごボランティアプラザ	http://www.hyogo-vplaza.jp/
豊岡市役所	http://www.city.toyooka.hyogo.jp/
兵庫県庁	http://web.pref.hyogo.jp/
出石まちづくり公社	http://www.izushi-tmo.com/
いるか設計集団	http://www02.so-net.ne.jp/~iruka/

「兵庫まちづくりプラットフォーム」

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号

神戸市生涯学習支援センター北棟3階

特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所内

TEL : 078-230-8511 FAX : 078-230-8512

E-mail = LET07723@nifty.ne.jp

本冊子の一部または全部を無断で複写、転載することを禁じます。